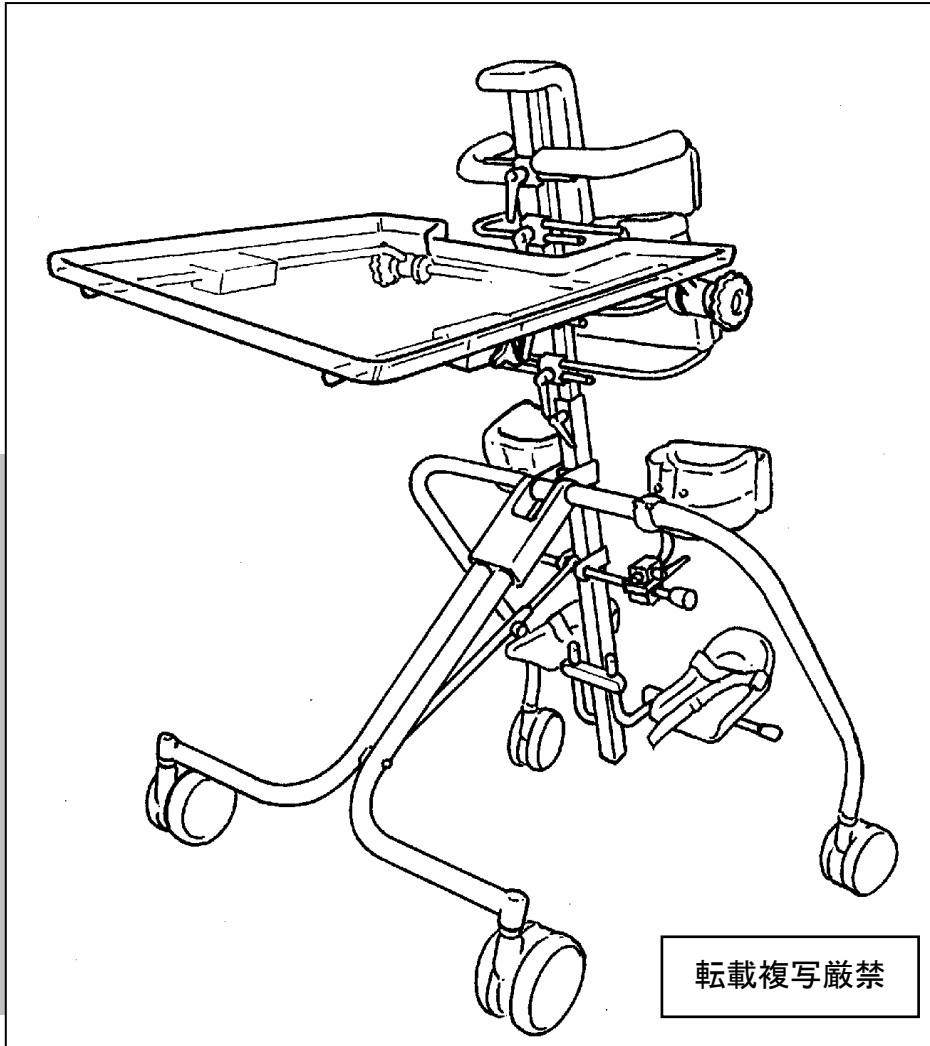


# 立位訓練具 「ロケットスタンダー」取扱説明書



この度は『ロケットスタンダー™』をご購入いただきまして誠にありがとうございます。  
本製品の機能を生かし、かつ安全にご使用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよく読み、内容を理解して下さい。

その後、大切に保管し、必要に応じてくりかえしお読み下さい。また、疾患や搭乗者の状態によって訓練の方法がかわりますので、医師・セラピストなどのリハビリテーション関連スタッフにご相談の上ご使用下さい。

**K パシフィックサプライ株式会社**

※Kマークは川村義肢の登録商標です。

※本製品に関するお問い合わせ先は裏表紙をご参照下さい。

## ●もくじ

1. 安全にご使用いただくために	P 3
絵表示について	P 3
●警告	P 4
●注意	P 5
2. 構成部品と各部の名称	P 6
●仕様	P 7
●特徴	P 7
3. 組立方法	P 8
4. 各部の調節	P 10
●調節が必要な箇所	P 10
●調節方法	P 12
5. 折りたたみ方法	P 14
6. ご使用前の準備・点検	P 15
★お子さんをスタンダーへ乗せてみましょう	P 15
7. 日常のお手入れと点検の方法	P 17
8. 保管方法	P 17
9. オプション	P 18
10. 材質と廃棄について	P 18

# 1.安全にご使用いただくために

本製品の機能を生かし、かつ安全にご使用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよく読み、内容を理解して下さい。その後、大切に保管し、必要に応じてくりかえしお読み下さい。

## ●絵表示について

この取扱説明書では色々な絵表示をしています。これは本製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々に加える恐れのある危害や損害を未然に防ぐための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、本文をお読み下さい。



### 警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると使用中に不具合を生じ、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。



### 注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると使用中に不具合を生じ、傷害を負ったり物的損害の発生が想定される内容を示します。



## 警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると使用中に不具合を生じ、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

- 疾患や搭乗者の状態によって訓練の方法が変わりますので、医師などのリハビリテーション関連スタッフにご相談の上、各部を調節して下さい。
- 立位に関して、その持続時間や頻度、禁止事項等は医師の指示にしたがって下さい。また、立位訓練プログラムは担当のセラピストによる監督のもとで行って下さい。
- 本製品の使用時には必ずセラピストまたは保護者が付き添い、常に子どもから目を離さないようにして下さい。
- 各部のねじ類は確実に締め付けて下さい。締め付けが悪い場合、使用中にゆるんできるとの恐れがあります。
- 搭乗中は絶対に調節作業をおこなわないで下さい。
- 搭乗者や医師、セラピストまたは介助者は本製品の使用方法や取扱注意事項が理解できるまで本製品をご使用にならないで下さい。
- 本書の安全に関する指示事項には必ずしたがって下さい。



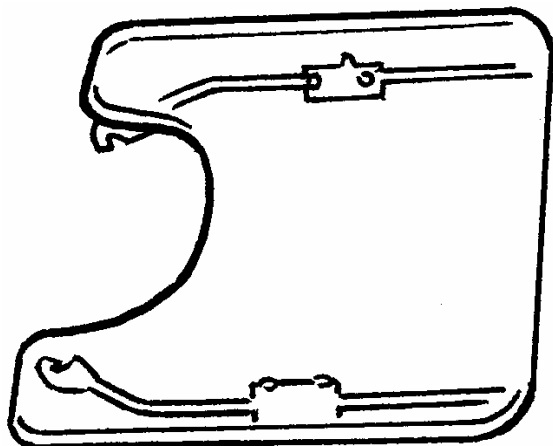
## 注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると使用中に不具合を生じ、傷害を負ったり物的損害の発生が想定される内容を示します。

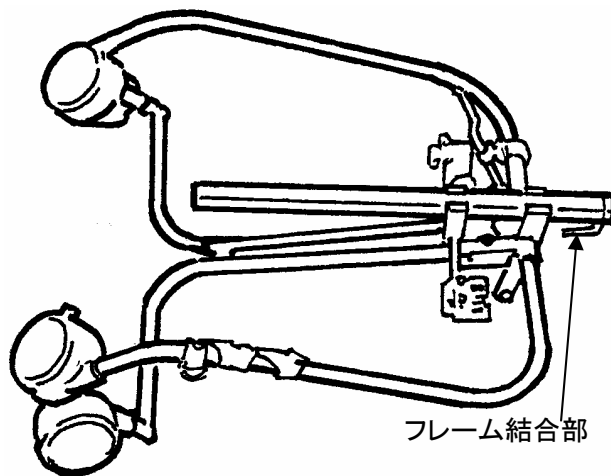
- 搭乗者や介助者は本製品を修理改造しないで下さい。
- 本製品に破損・異常が発生していないかご使用前に必ず各部を点検して下さい。万一、破損・異常が発生した場合または発見した場合はそのまま使用せず、ご購入の販売店 に修理交換をご相談下さい。また、異常状態のまま使用しないで下さい。
- 保守点検は1日1回使用前に必ずおこなって下さい。また、保守点検をおこなっていない製品は使用しないで下さい。
- 調節作業中は必ずブレーキをかけて下さい。意図せぬ時に動き出す恐れがあります。
- 直射日光のあたる場所や炎天下の車内に長時間放置したり熱器具(ストーブなど)の近くで使用しないで下さい。熱により変色や変形する恐れがあります。変形した本製品は使用しないで下さい。
- 製品の不断の改良により詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄については販売店まで問い合わせて下さい。
- 本書の内容に関しましては万全を期していますが、万一不審な点や誤り、乱丁、落丁、記載漏れなどに気付いた場合は販売店までご連絡下さい。
- 本書に規定した方法以外での使い方に対しては、安全性は保証できません。
- 本書は製品とともに常に手元に保管し、必要に応じてくりかえしお読み下さい。
- 本書中の図は一部を省略したり抽象化した表現になっているものがあります。
- 本書を紛失または損傷した場合は速やかに販売店までご連絡下さい。
- 本製品は改良のため予告なしに変更する場合があります。
- 本書の全部または一部を無断で転載複製することを禁止します。

## 2. 構成部品と各部の名称

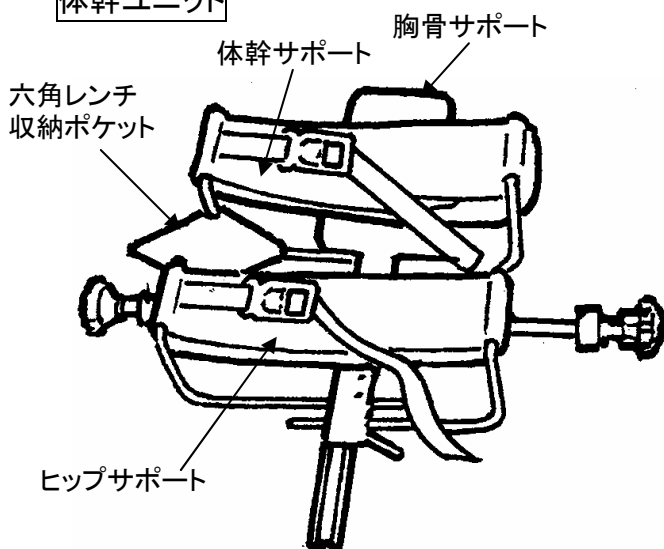
トレイ



ベース



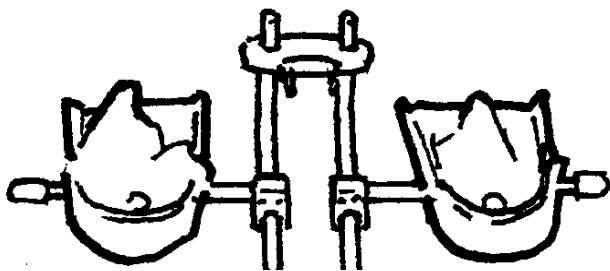
体幹ユニット



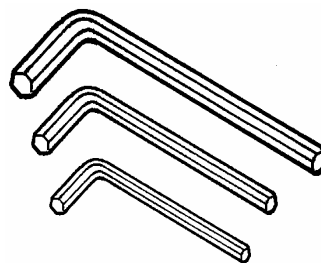
膝ブロック



フットサポート



六角レンチ



3種付属しています。(体幹ユニットの収納ポケットに入っています。)

## ●仕様

製品名:『ロケットスタンダー™』

目的:立位訓練具

本書の対象者:医師などのリハビリテーション関連スタッフ、介助者、搭乗者

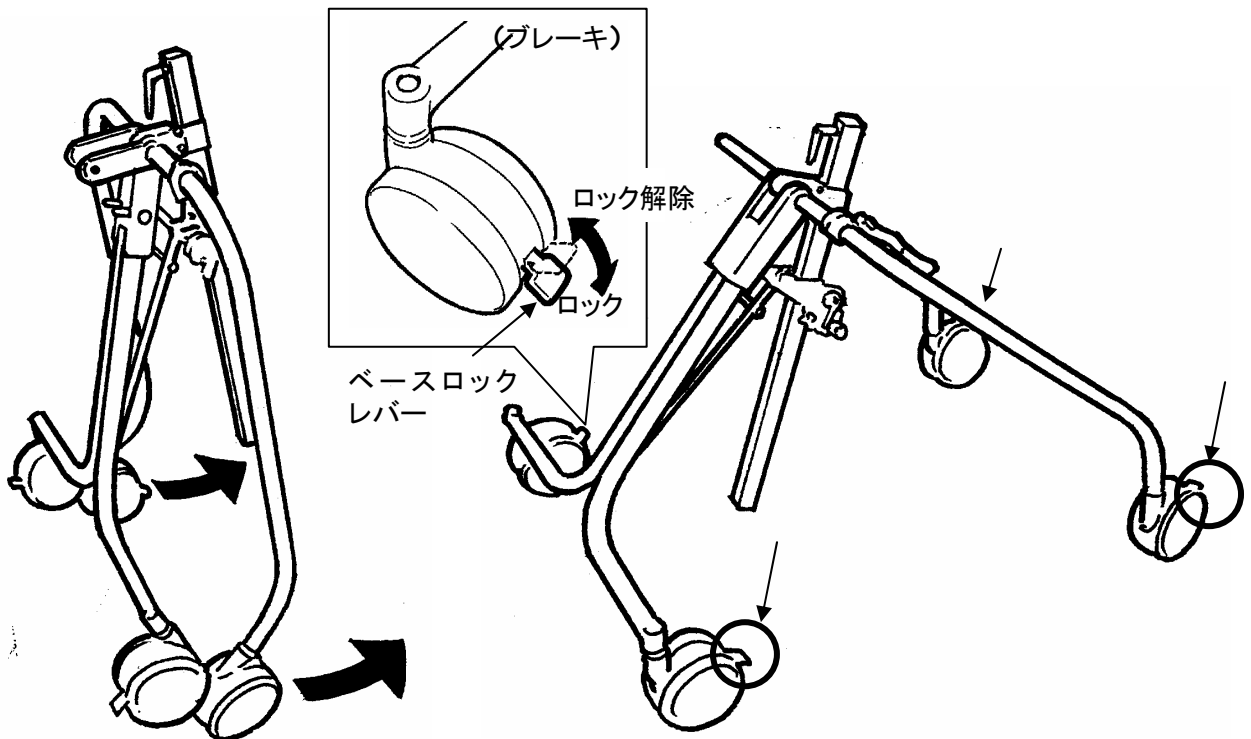
	<b>S サイズ</b>	<b>M サイズ</b>
幅	<b>56cm</b>	<b>56cm</b>
奥行き	<b>67cm</b>	<b>82cm</b>
高さ	<b>70-90cm</b>	<b>80-100cm</b>
搭乗者制限体重	<b>22.7kg</b>	<b>34kg</b>
適応身長	<b>60-104cm</b>	<b>91-127cm</b>
製品重量	約 <b>14kg</b>	約 <b>18kg</b>
回転半径	<b>67cm</b>	<b>82cm</b>
折りたたみサイズ	<b>38cm</b>	<b>50cm</b>

## ●特徴

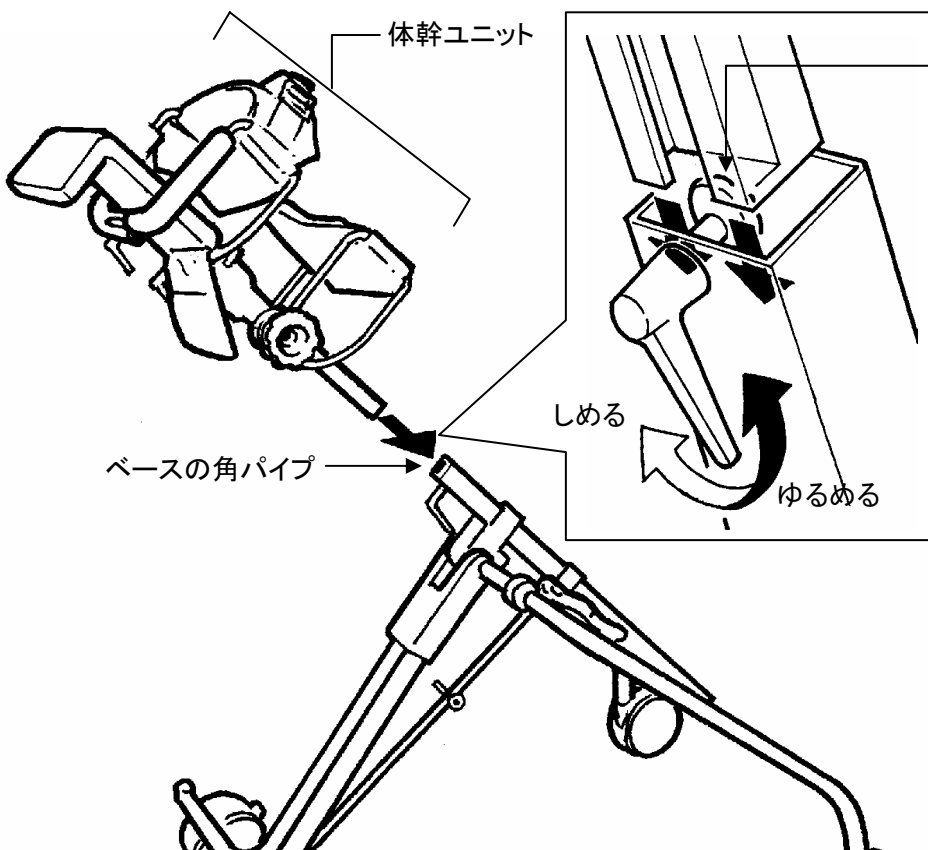
- ☆ この「ロケットスタンダー」は腹臥位、垂直位、仰臥位を必要とする子ども達に、体幹、骨盤、膝関節、足関節への正確なサポートを与えるよう設計されました。腹臥位から垂直位、仰臥位への調節によって段階的に荷重を与えることができます。そのため、子ども達はより自然に筋緊張のバランスをとることができ、安定します。また、脊椎の伸展の度合いを任意に設定することもできます。
- ☆ 立位がサポートされることにより、頭を正しい位置へ起こしたり、前腕への荷重、中立位での手の使用にも良い刺激がもたらされます。立位になることにより、仲間との触れ合いなどの相互作用の機会も与えられます。上肢による様々なアクティビティーは立位プログラムの中の不可欠な部分です。

# 3.組立方法

①ベースを広げてベースロックレバーが図のようになるようにし、ブレーキをかけます。



②体幹ユニットをベースの角パイプに取り付けます。



角パイプの中のネジ頭が体幹ユニットパイプのミゾに入っていることを確認して下さい。

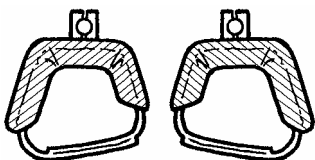


③ 膝ブロックを取付けます。

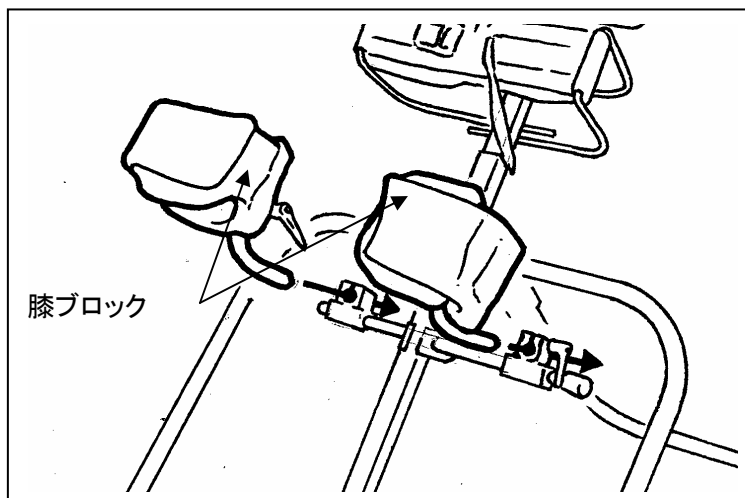
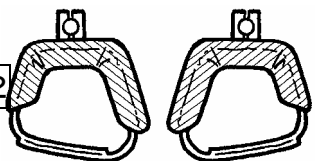
搭乗者の症状に合わせて、膝ブロックの向きを変えてご使用下さい。(下図の例)

上から見た図

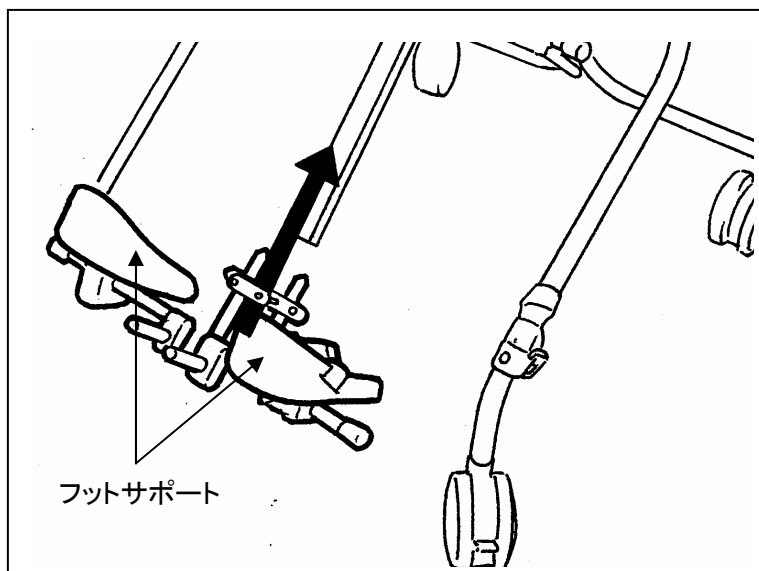
例 1



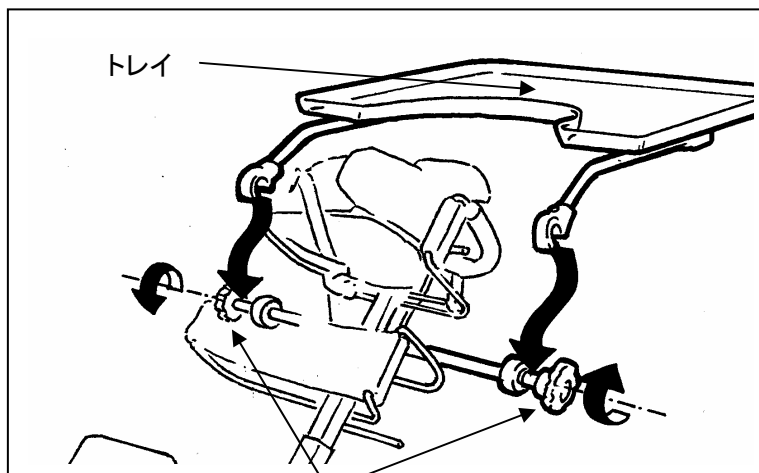
例 2



④ フットサポートを取付けます。



⑤ トレイを取付けます。



組立は以上で終了です。

グリップをしっかりとめます。

## 4. 各部の調節

調節するには様々な調節を試みて、荷重や筋緊張のバランス、頭の位置にとって、最適な位置を見つけて下さい。身体の成長や姿勢保持の必要度の度合い、荷重を受けられる前腕の力に合わせ、適切な調節を行って下さい。



### 警告

搭乗中は絶対に調節作業を行わないで下さい。



### 注意

調節作業中は必ず左右のブレーキをかけて下さい。意図せぬ時に動き出す恐れがあります。

## ●調節が必要な箇所

### A. 支柱部の傾き(傾斜度)

空間内での子どもの位置確認、姿勢の緊張、体重の分散に影響します。

### B. ヒップサポート・体幹サポート

側方だけでなく前方及び後方からもサポートします。ヒップサポートは必ずぴったりとフィットさせて下さい。体幹サポートは子どもが体幹をどの程度機能的にコントロールできるかによって、しっかりとフィットさせるか、またはあまり締めないようにするかを決定します。

### C. 膝ブロック

膝ブロックは前方からのサポートのみです。ただし、膝関節の屈曲に応じて角度を変えることができます。

### D. フットサポート

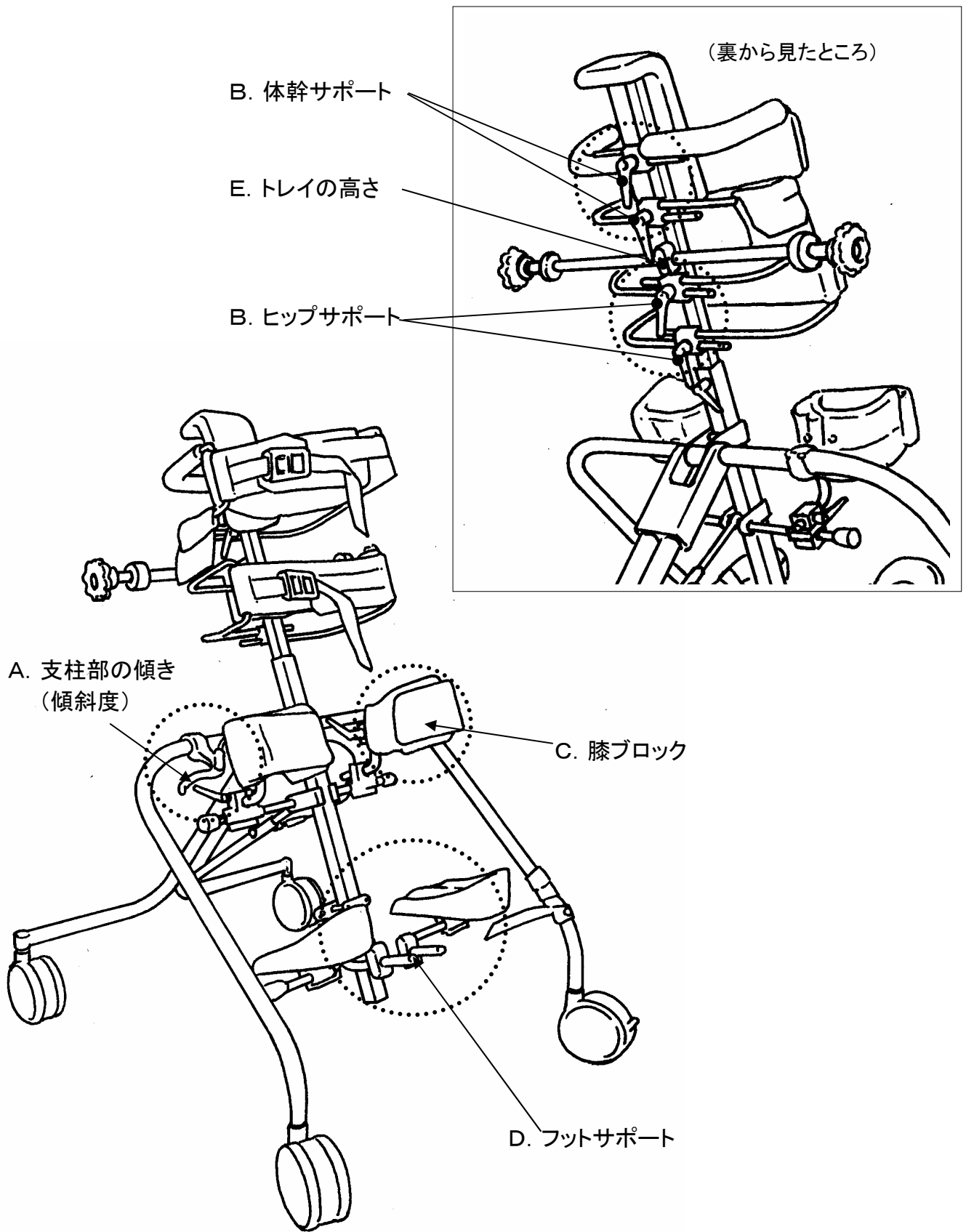
フットサポートは両下肢へ均等な荷重がかかるように独立して調節できます。脚長差や底屈／背屈、回旋、股関節外転を補うための調節が可能です。

(内外反の調整はできません)

### E. トレイの高さ

トレイの高さを調節することで、(テーブル上でのアクティビティーに必要な)上肢の支持面が得られ、(その前腕からの支持によって上肢帯が安定し、)頭部を正しい位置へとコントロールする補助となります。トレイの傾斜角度は調節可能です。仰臥位で本製品をご使用される場合、取付け位置を替えてご使用下さい。\*

※ この場合、ネックレスト(別売品)が必要になります。詳しくは **18** ページ「**9. オプション**」をご参照下さい。



## ●調節方法 【 搭乗中は絶対に調節作業を行わないで下さい。 】

1. まず、次の項目を計測して下さい。

- ①かかとから腸骨稜(骨盤)まで \_\_\_ cm
- ②かかとから腋窩(わきの下)まで \_\_\_ cm
- ③かかとから膝蓋骨の下部まで \_\_\_ cm
- ④腰の横幅(最も広い部分) \_\_\_ cm
- ⑤体幹の幅 \_\_\_ cm
- ⑥脚長差 \_\_\_ cm

2. **4 つの六角ネジをゆるめ、ヒップサポートをスライドさせ、できるだけフレーム結合部に近づけます。調節後、再度しっかりと締めます。**

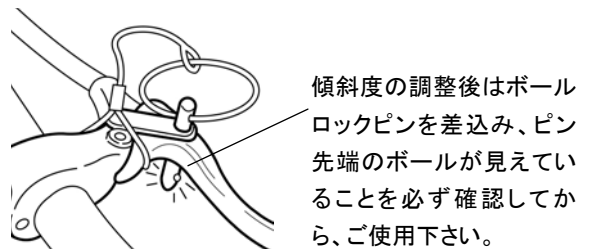
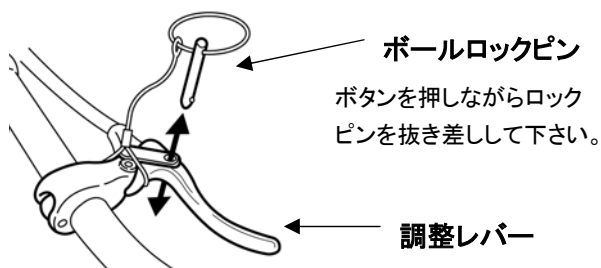
3. ヒップサポートの上部からフットサポートまでの高さを①で計測した値になるように調整します。

4. フットサポートから膝ブロックの中央までの高さを③で計測した値になるように調整します。

5. フットサポートから体幹サポート上部までの高さを②で計測した値になるように調整します。

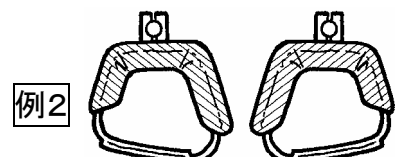
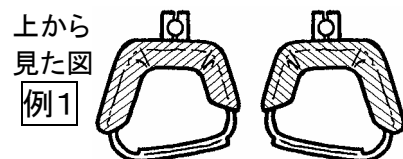
6. ヒップサポートの幅を④で計測した値に、体幹サポートの幅を⑤で計測した値になるようにそれぞれ調整します。

7. 傾斜度: 調整レバーで全体の傾斜度を調整し、**調整後は安全のため、必ずボールロックピンを挿して下さい。**



8. 膝ブロックの角度と位置を調整します。

膝ブロックは図のような形状をしています。  
搭乗者の症状に合わせて向きを変えてご使用下さい。



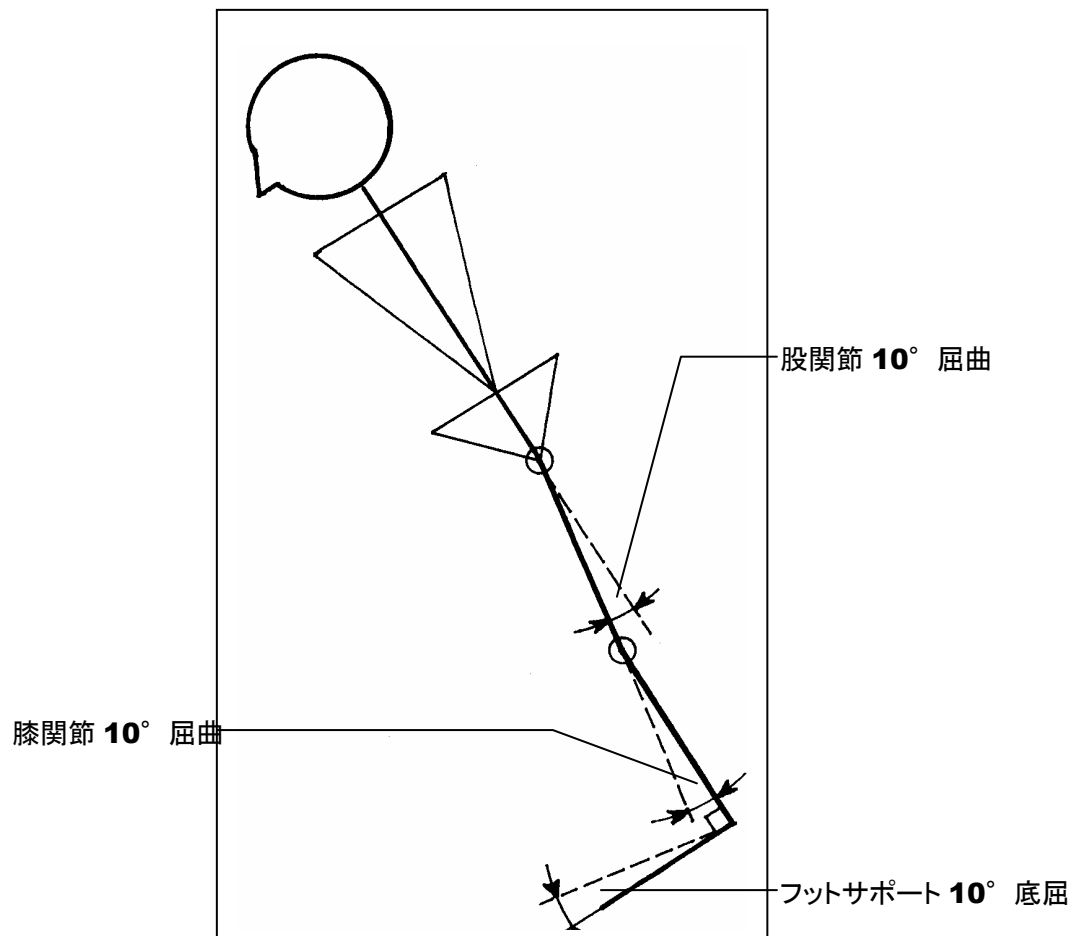
9. フットサポートを調節します。

① 足関節の底屈／背屈調節

フットサポート裏面の六角ねじをゆるめて調整します。

調整例

股関節および膝関節を **10 度** 屈曲した姿勢の場合、足関節が中間位になるようにフットサポートを調節するには、フットサポートを **10 度** 底屈する必要があります。これは可動域が限られている子どもにとって非常に重要な調整です。



② 股関節および下腿の内旋／外旋調節

フットサポート上部のネジと裏面のナットをゆるめて調節します。

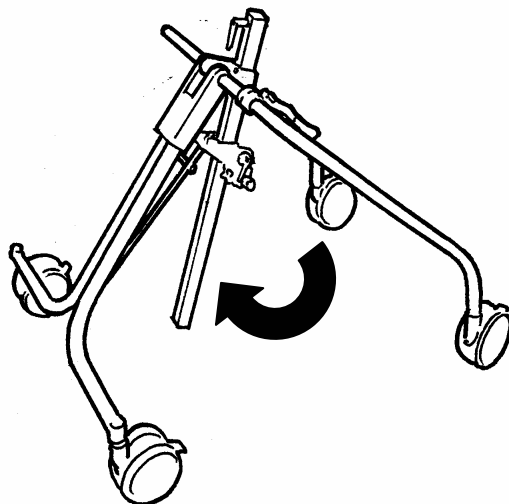
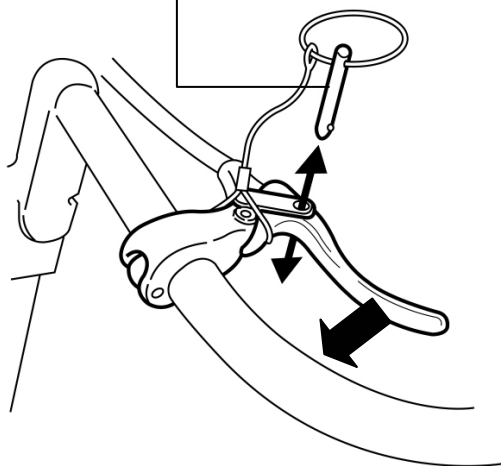
③ 脚長差がある場合の調節

フットサポート取り付けバーのねじをゆるめて調節します。

# 5. 折りたたみ方法

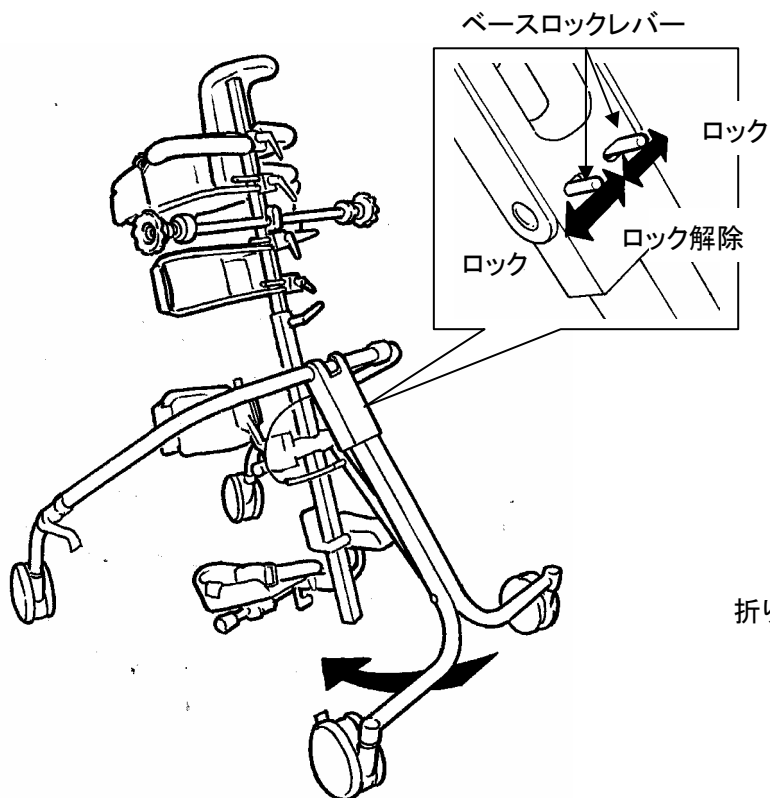
- ① 傾斜度調整レバーのボールロックピンを抜き、体幹ユニットの傾斜角を図のように傾けます。

ロックピンを引き抜きます。

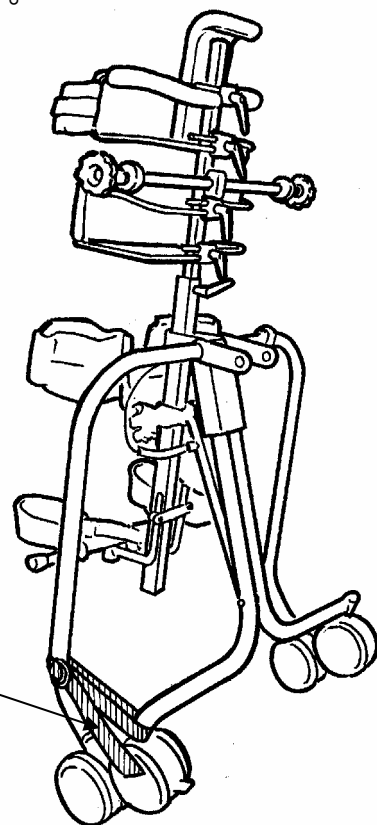


- ② ベースロックレバーを内側にスライドさせながら、ベースを折りたたみます。

- ③ 折りたたみ用ベルトでベース全体が開かないようにします。



折りたたみ用ベルト



## 6. ご使用前の準備・点検



### 警告

本製品に破損・異常が発生していないかご使用前に必ず各部を点検して下さい。万一、破損・異常が発生した場合または発見した場合はそのまま使用せず、ご購入の販売店に修理交換をご相談下さい。また、異常状態のまま使用しないで下さい。

1. 安全な使用を妨げるようなものが訓練する周辺にないか。
2. ブレーキは正常にきくか。
3. 各ベルト類にゆるみやガタツキ、損傷や裂け等はないか。
4. マジックテープの接着不良や縫製部分にホツレはないか。
5. 各部にひび割れや欠け、変形がなく、ねじやカシメ部分にゆるみやガタツキはないか。
6. 各車輪がスムーズに動くか。
7. その他の異常を発見した場合も直ちに使用を中止し、ご購入の販売店に修理交換をご相談下さい。
8. 異常状態のまま使用しないで下さい。

### ★お子さまをロケットスタンダーへ乗せてみましょう。

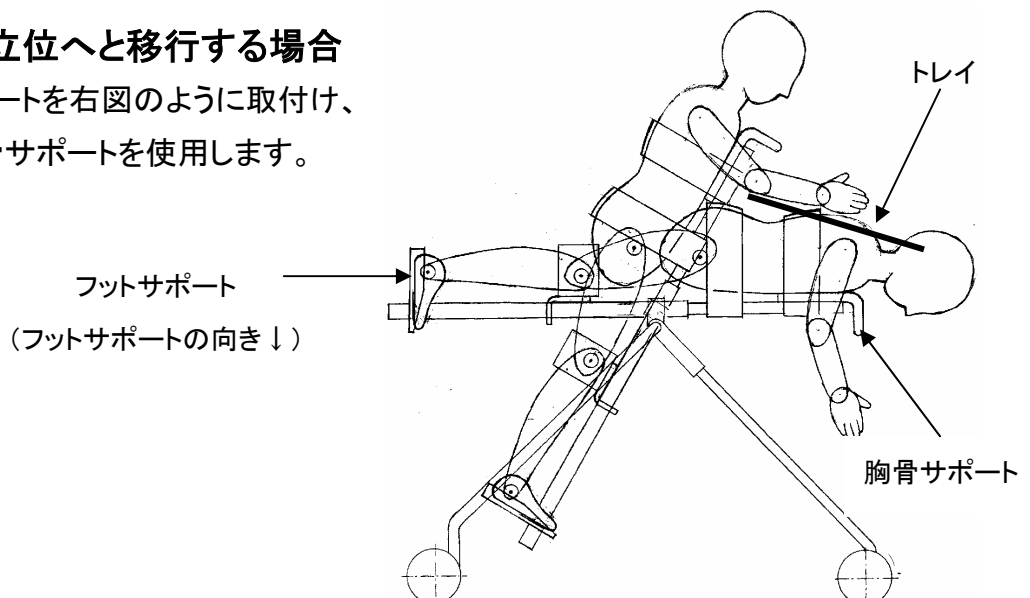


### 警告

- 本書では一般的な訓練方法を記載しています。疾患や搭乗者の状態によって訓練の方法がかわりますので、医師などのリハビリテーション関連スタッフにご相談の上ご使用下さい。
- トレイのサポートバーにはすべりをよくするためにグリスを塗布しています。子どもがなめたりしないように注意して下さい。

### ○ 腹臥位から立位へと移行する場合

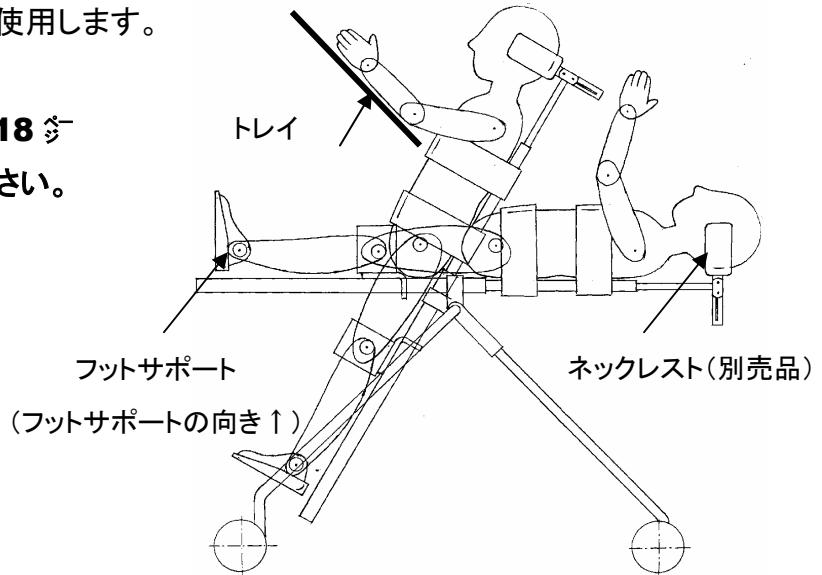
トレイとフットサポートを右図のように取付け、標準付属品の胸骨サポートを使用します。



## ○ 仰臥位から立位へと移行する場合

トレイとフットサポートを下図のように取付け、  
ネックレスト(別売品)を取付けて使用します。

☆ 取付け方法につきましては **18** 頁  
「**9. オプション**」をご参照下さい。



1. 子どもをロケットスタンダーに乗せるまたは降ろす場合は、**4 つのキャスターロックを全て踏んで、本体を必ずロック(固定)させて下さい。**ロックしていない場合、意図せぬ時に動き出す恐れがあります。
2. 使用する前にあらかじめ、セラピストは子どもの乗り降り／移動に必要な人数を判断して下さい。無理な乗せ降ろしは絶対に行わないで下さい。セラピスト以外の人が子どもを乗り降り／移動させる場合は、必ずセラピストの指示に従って下さい。
3. 子どもの足をフットプレートに置いてから、ロケットスタンダーへ乗せます。一旦、腕を伸展させながら前方に出し、体幹サポートに覆いかぶさるような形にします。
4. 子どもの体を支えながら始めにヒップベルトをしっかりと締め、次に体幹サポートを締めます。
5. **ヒップサポートおよび体幹サポートの安全バックルストラップは、ご使用の度にしっかりと締めて下さい。**その後、膝ブロックのストラップを締め、次にアンクルストラップを締めます。
6. トレイの角度と深さを調整します。
7. 医師およびセラピストが処方した時間のみロケットスタンダーを使用して下さい。
8. 子どもがロケットスタンダーを使用している際は必ず監督して下さい。



### 警告

各部のねじ類は確実に締め付けて下さい。締め付けが悪い場合、使用中にゆるんでくる恐れがあります。



## 7. 日常のお手入れと点検の方法



### 警告

保守点検は1日1回使用前に必ずおこなってください。また、保守点検をおこなっていない製品は使用しないで下さい。

#### <日常のお手入れ>

1. 金属・プラスチック部分: 中性洗剤で拭き、よく乾かして下さい。
2. キャンバス地部分: 湿らせた布で拭いて下さい。

#### <点検の方法>

1. ブレーキは正常にきくか。
2. 各ベルト類にゆるみやガタツキ, 損傷や裂け等はないか。
3. マジックテープの接着不良や縫製部分にホツレはないか。
4. 各部にひび割れや欠け, 変形がなく、ねじやカシメ部分にゆるみやガタツキはないか。
5. 各車輪がスムーズに動くか。
6. その他の異常を発見した場合も直ちに使用を中止し、ご購入の販売店に修理交換をご相談下さい。
7. 異常状態のまま使用しないで下さい。

## 8. 保管方法

水分や直射日光をさけ、日陰で保管して下さい。

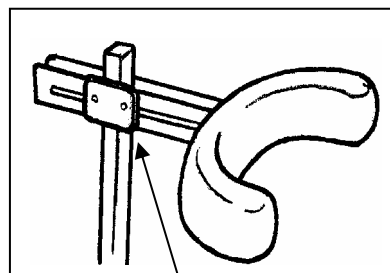
## 9. オプション

### ●ネックレスト(別売品)

(仰臥位～立位のセラピーに使用される場合に必要です。)

※

ロケットスタンダーは必ず「ネックレスト(別売品)」  
「胸骨サポート(標準付属品)」のどちらか一方を  
取付けた状態でご使用下さい。



ネジ A

仰臥位～立位のセラピーにロケットスタンダーを使用される場合

1. フットサポートの位置を逆に(足先が支柱部から反対方向に)向くように取付けて下さい。
2. 胸骨サポート(標準付属品)を取り外し、支柱部の上部にネックレストを取付けます。ネックレストの高さと奥行を調節する2本のネジ A を緩め、頭部が肩と一直線になるように、耳の高さ、あるいはその下の高さで支持するように位置を調整します。調節後、2本のネジ A がしっかりと締まっていることを必ず確認して下さい。
3. トレイを2本のサポートバーからスライドさせて取外します。サポートバーを(体幹サポートのある方に)反転させてから、カムを締めて固定します。再度、トレイを2本のサポートバーに差込み、(搭乗するお子さまに合わせて)適当な深さまで引出し、トレイ裏の黒色のノブを締めて固定します。

## 10. 材質と廃棄について

お住まいの各自治体の指示に従って廃棄処分して下さい。

### 材質

- フレーム : アルミ(粉体塗装/黒アルマイト加工圧延材)  
部品 : アルミ(粉体塗装/黒アルマイト加工圧延材)・亜鉛メッキ・ステンレス・スチール  
パッド : ネオプレンフォーム  
布地 : ナイロン製・Naugshyde(US393)  
キャスター : 成形ナイロン



● 輸入・発売元

**k** パシフィックサプライ株式会社

本 社	〒574-0064 大阪府大東市御領 1-12-1	TEL (072) 875-8008 (代) / FAX (072) 875-8010
札幌営業所	〒003-0023 札幌市白石区南郷通り 14-北 2-33 パブリックライツ 1F	TEL (011) 862-1136 / FAX (011) 862-1002
仙台営業所	〒980-0871 仙台市青葉区八幡 1-4-22 裳栄ハイツ 1F	TEL (022) 224-3261 / FAX (022) 264-6935
東京営業所	〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-3-12 グレイスビル 2F	TEL (03) 3352-0757 / FAX (03) 3355-3154
大阪営業所	〒574-0064 大阪府大東市御領 1-12-1	TEL (072) 875-8011 / FAX (072) 875-8015
福岡営業所	〒812-0054 福岡市東区馬出 2-2-12	TEL (092) 641-8151 / FAX (092) 641-0444